

世界が平和であるために

せんそう
を起こさないため
には、みんなですけ
あたり、人のことを思っ
たりすること、ケンカをつ
くらないようにすること
です。

今この
風景が当たり前
に思えるけど昔の人
には平和な場所に思
えると思う。

戦争に対する思
いや、戦争を起こ
さないために何
をすればいいの
か市内小学生の
子どもたちが考
えました。

みんなにやさしくした
らいいと思いました。

昔、日本
が何十年間も戦争
をしていたことを学ん
だ。ウクライナ紛争もこ
んなに続くのかと思
うとこわい。

ばくだんが落とされて、
こんなに関係のない人
がなくなっているなんて
予想外でした。

戦争の時代は給食が
週に1回だけだったと
きいてびっくりした。

平和学習を
通して

せんそうはやめて!

わたしと同じ年くらいの子が友達の前で息を引き取ることはとても残酷なこと。今幸せに喜んでいることがありがたくてたまりません。

戦争はどんなことがあってもいけないことだと思います。

人のいのちがなくなったらいけないからせんそうはやめてほしいです。

離れていても、できることはある!

-子どもボランティア隊の募金活動-

香南市子どもボランティア隊(KKV)は「自分たちのまちを良くしていく」ために子どもたちが自ら考え実行するボランティア隊です。香南市社会福祉協議会が市内の小学3年生から高校生を対象にボランティアを募集し、今年度は7小中学校22名が集まりスタートしました。KKVでは今年の春の活動として「ウクライナの子どものための募金活動」を行いました。募金を募る場所を決め、募金箱やポスター・お礼の折り紙など隊員みんなが協力して製作し市内2箇所で行った。集めた募金5万795円は日本ユニセフ協会へと送られました。



そんなKKVの隊長と副隊長をしている野市中学校3年生の坂本直哉(さかもとなおや)さんと出原稜月(でばらりょうが)さん。今回の募金活動を終えて、戦争や平和に対する2人の思いをまとめてみました。

平和特集



終戦から77年が経ち、実際に戦争を体験した方が貴重な存在となりました。日本での平和が長く続いた証拠ではありますが、現在の若い世代にとって「戦争」は歴史や遠い国の出来事となりつつあるように感じられます。

そんな中、今年の2月にはロシアのウクライナ侵攻が本格化し、日本でも痛ましいニュースが毎日のように流れるようになりました。遠い出来事のように感じられた戦争が一気に現実味を帯びてきました。

二度と繰り返してはいけない戦争。未来を担う子どもたちが戦争や平和についてどんな学習をして、どんな思いをもっているのか。今年の平和特集はそんな子どもたちのまっすぐな思いを集めてみました。

学校ではこんなことをやってるよ!

市内小中学校で行われている平和学習

授業で行われる平和学習

日本の原爆被爆や沖縄戦、高知大空襲などについてDVDや教材を使って戦争の恐ろしさや平和とは何かを学習しています。地域の戦跡や、地域で保管している当時の戦闘機の部品なども見学しています。

修学旅行

広島・沖縄などを訪問し、資料館見学や現地ガイドの講話を聴きます。訪問前には事前学習を実施しています。



実際に戦争体験をされた語りべさんから当時の話を聞く平和学習。実体験をされた方が身近にいることを肌で感じる貴重な学習です。

7/4(月)、高知市で行われた平和祈念式へ市内中学生が参列。平和への思いを込めた折り鶴を献上しました。戦争を知らない世代としては初めての参列となりました。



とにかく「誰かのために自分たちができていることをしたい」という思いで毎回ボランティアをしています。今回は社会福祉協議会の方からいくつか募金先を提案してもらい、隊員みんながウクライナの子どもたちへの募金を決めました。

ウクライナ紛争のことはニュースなどで目にしている。「死傷者は何名です」と見ると、簡単に流れているけど、自分たちと変わらない民間人が亡くなっているんだ。と悲しい気持ちになります。修学旅行の事前学習でもひめゆり学徒隊のことを学んだけれど、生徒たちが見放されたことや亡くなった人の数の多さが悲惨な出来事を物語っていて強く印象に残っています。

戦争って起こす側の言い分はすごく単純で、土地が欲しいとか思い通りに何かをしたい、というものが多いよ。うな気がします。でもそれは人の命を奪う理由になるのかな?と思います。戦争を起こして幸せになれる人なんて本当に少ない。武力で思い通りにするんじゃないかと、話し合いや交渉で共存することをずっと考えてほしい、と思います。

もし自分たちが友達と喧嘩

日本にも自衛隊があつて守ってくれる存在は心強いですが、でも、自衛隊のためでも武力を持つことで戦争に巻き込まれる可能性もあるのかな、と思います。誰もが武力を手放せば、自衛も必要ないんじゃないかと思えます。募金を終えて思ったことは、遠い国のことだから関係ない、ではなくて離れていてもできることはある!ということ。やっぱり困っている人のために何かしたいし、できることがうれしいです。これからもこの思いをKKVの後輩隊員たちに引き継ぎながら、自分たちにもできることをしていきたいです。

一緒にやろうよ!
ボランティア!

坂本さん(右)と出原さん(左) ビシッと決めポーズをしてくれました!